



県種畜共進会 首席「はるいとかつ号」
田部 武弘さん所有（掛合町）

雲南市和牛グランドチャンピオン
島根種畜共進会・島根中央子牛共進会



中央子牛共進会 グランドチャンピオン「はまゆり号」
野々村 澄雄さん所有（大東町）

島根中央家畜市場（松江市六道町）で平成17年度島根種畜共進会（10月16日）と島根中央子牛共進会（10月25日）が開催され、雲南市の出品牛がグランドチャンピオンに選ばれました。

両大会へは、雲南市から種畜共進会へ14頭、子牛共進会へ15頭の和牛が出品され、厳しい審査の結果、子牛の部で野々村澄雄さん（大東町）所有の「はまゆり号」がグランドチャンピオンに輝きました。

また、この16日には、JA女性部和牛審査競技会で、雲南さくらチーム（木次町）が優勝、大東姫ボタルチーム（大東町）が準優勝を飾りました。

雲南市の新たな取り組み「ふるさと通貨」



地域通貨フォーラム in 雲南

雲南市では、平成17年12月1日～平成18年1月31日の期間中、地域再生計画に基づき、住民基本台帳カードを利用した「雲南市ふるさと通貨」の実証実験を行います。

この実験は、住基カードを使ってふるさと通貨の参加申込みをしていただいた市民のみなさんが、住基カードを使ってふるさと通貨（ポイント）を市内の温泉施設で使用したり、雲南市の各種イベントに参加し、ポイントを貯めたりするものです。

フォーラムの中で、速水市長は「広域な雲南市の住民サービスを充実させていくために、電子行政の推進を図っていきます。その一環として、このふるさと通貨が、市内の生産・消費の拡大や活性化につながれば」と話しました。

実証実験に先がけ、大東町の古代鉄歌謡館を会場に11月6日、「ふるさと通貨で島根を元気にしよう」をテーマに、地域通貨フォーラムが開かれました。

フォーラムでは、東京大学の須藤修教授の「電子地域通貨と地域発展」と題した講演のほか、須藤教授や総務省の牧慎太郎情報政策企画官、地域通貨を導入している海士町の田口耕さん、速水市長などをパネリストに迎えたパネルディスカッションも行われました。

11月から雲南市産業振興センターが開所しました



雲南市産業振興センターは、「自立型地域経済圏の確立に向けたふるさと産業の創出」の実現をめざし、『地域雇用の拡大、地域外貨の獲得につながる企業活動・企業連関の支援』『雲南らしさのある産業の創出・起業化の支援』を行い、持続可能な地域産業の育成・創出による定住化を促進します。

また、民間からプロデューサー、アドバイザーを登用することで事業者のみならず必要とする情報、ノウハウ、人脈等を生かしたきめ細かい対応、柔軟で効果的な支援を行ってまいります。

雲南市産業振興センターの役割（3つのスローガン）

- ①雲南らしさのある持続可能な地域産業の創出に向けた技術開発・人材育成を支援します。
- ②産業分野における多様な相互連携・企業連関が生まれるネットワークづくりを支援します。
- ③「選択と集中」型の支援により、短期間で成果のある産業振興を進めます。

支援・連携関係図



※詳細は、雲南市ホームページ内産業振興センター (<http://www.city.unnan.jp/unnan-ssc/>) をご覧ください。

民間スタッフの紹介（非常勤）

- ◇産業創出プロデューサー
三木善弘氏（64歳） ※現島根三洋工業株式会社代表取締役会長
- ◇アドバイザー
笹尾 武（61歳） ※現島根県農業信用基金協会専務理事
宮原 末二（58歳） ※現木次リテイル・サービス株式会社代表取締役

市内企業のみなさまへ

雲南6町村が合併し、1年が経ちました。これまで各町村とも隣接していながら事業者同士の「人」や「情報」、「技術」の交流といったものが無かったように思います。そこで「雲南市産業振興センター」では、積極的な事業所訪問を行い、ニーズに対応した支援に務めるとともに、異業種交流、産学官連携等の「事業者間ネットワーク」による地域産業の振興を目指したいと思います。日頃お困りのこと、新たな事業展開の検討等ありましたら、お気軽にご相談ください。お待ちしております。

【お問い合わせ】 雲南市産業振興センター
〒699-1334 雲南市木次町新市426番地7 雲南市役所分庁舎 産業振興部（産業推進課内）
☎0854-42-5656 ☎0854-40-1052 FAX0854-40-1059
E-MAIL unnan-ssc@city.unnan.shimane.jp